

でんでんくん



でんでんくん きぬたくん つちこちゃん

発行：秋田県立聴覚支援学校内 きこえとことば支援センター

自立活動について

『自立活動』の時間って何をすればいいの？—難聴学級を担当することになった先生方が皆さん悩むところではないでしょうか。今年の夏、本校で「聴覚障害者教育論」というテーマで行われた認定講習で、信州大学の庄司先生がお話しされた内容（主に言語指導について）の中にいくつかヒントを見つけましたのでご紹介します。聾学校での教育としてお話しくださった講義ではありますが、難聴学級での言語指導においても参考になる内容だと思います。

「どのような児童に対して」「何を」「どのように」教えるか？

実態に応じたねらいと内容が大事。学校生活の中で児童と関わる時間を多く取り、やり取りを重ねながら実態を見極めていくことが大切。

自立活動は子どもの主体性を伸ばす活動。子どもの実態＝「できること」がベース

お子さんの実態として、「できない」と「できる」、あるいは「できない」の中の「できる」について捉え、「できる」をもとに、指導の仕方考えることが大事。

実態把握の大切さを実感したお話でした。

7月に実践研修で訪問した小学校の自立活動の授業で、夏の言葉クイズを作って出題する活動を参観させていただきました。季節に関することの理解や助詞や文末を意識して話すことが少し難しいですが、おしゃべりが大好きなお子さんです。たくさん集めた夏の言葉が答えになるように、それを説明する文や、自分だけが経験したオリジナリティーいっぱいの愉快的な内容をヒントにして、とても楽しくやり取りをしていました。出題する相手や、他の季節等、多様な広げ方もできそうです。

お子さんのできること、好きなことをベースにして、自立活動の目標にあるように「障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服」できるような題材を設定していきたいですね。

オンラインの相談支援の紹介

オンラインでの相談支援のニーズに基づき、昨年度より Zoom や Google Meet 等を使って児童生徒・担任等への相談を実施しています。今回はその取組の場面とオンラインの活用方法について3事例紹介します。

①パワーポイントやロイロノートを使った双方向のやり取りの場面(直接画面を操作できます)



②相談担当職員と児童との顔合わせ場面(児童と直接会う前にやり取りをしました)



③指導の記録ビデオを用いた担任の先生との相談場面



オンラインを使った相談支援では、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念の払拭や、来室するための時間や移動の負担軽減などメリットがあります。一方、やり取りの際、音環境の問題や画面では捉えにくい状況の把握、機器の接続や調整の仕方など課題となる面もあります。相手校に大きなモニターの準備など配慮をしていただいたケースもありました。オンラインの実施に当たっては、今後とも関係校と連携を図りながら、方法を工夫して相談支援を進めていきたいと考えております。

～ 教室掲示の工夫 ～ 小学校難聴学級の実践を紹介します

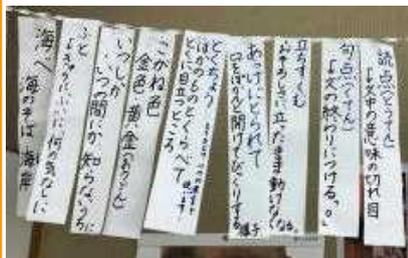
言葉の理解とその定着には、視覚的情報を整理して掲示することも有効な手立ての一つです。例えば、黒板の左側にテープ等を貼って「言葉コーナー」の場所を確保し【定着を促したい言葉や表現】を気付いた教師が書き込み、教師間で共有し意図的に取り上げます。ここで概ね定着できた言葉は、教室右側等のスペースに針金を渡して短冊にします。短冊にした言葉は、時々取り上げ、定着に結び付けていきます。

行事の掲示 ～ 経験の言語化



子どもが自ら振り返ったり、様々な場面で取り上げて定着を図ることができるよう、行事や学習内容、既習内容の教材等を子どもの定着度や必要度に合わせ掲示しましょう。

言葉の短冊



学習内容の振り返り

聴覚支援学校における情報保障について

本校では儀式や行事の場で、即時に、かつ正確に状況を伝えるために、様々な形で情報保障を行っています。

話をする人がマイクを使用することはもちろんですが、キーワードを書いて提示したり、手話で通訳したり、あらかじめ話す内容を入力したデータをモニターに映したりして、児童生徒が自分で選択して情報を得られるように配慮しています。話し手が、口形の見えやすい透明マスクに変えるだけでも、情報が伝わりやすくなります。

また、会議や研修では音声認識システムやソフトウェア（UDトークや speech to text）を用いて、話と同時に字幕を表示しています。文字の誤変換もありますので指導場面では注意が必要ですが、動画視聴やオンライン学習における情報保障手段の一つとしてご紹介します。



先輩と語る会・中学生の交流会

日時：令和4年12月16日（金）13：30～14：20
 場所：秋田県立聴覚支援学校 会議室西・東
 講師：鈴木 亜未 氏（日産自動車株式会社）
 平成29年度高等部情報デザイン科卒業
 講話：演題「働くために大切なこと（仮題）」

★中学生の交流会も兼ねています。ご希望に応じて、教育相談もお受けします。

〔昨年度の様子〕



きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）【直通携帯電話】090-8784-6302
 〒010-1409 秋田市南ケ丘一丁目1番1号
 【聴覚支援学校】TEL：018-889-8572 FAX：018-889-8575
 E-mail：chokaku-s_shien@akita-pref.ed.jp